

水俣病のあらまし

～水俣病と生きる～



水俣病の公式確認の日から、60年以上の歳月が流れました。この間、世界中で多くの公害や環境問題が次々と発生し、人類のみならず全ての生き物にとって苦難の日々が続いているといえるのではないのでしょうか。それまで普通に生活していた人たちが、突然公害の惨禍に見舞われ、その暮らしが奪われ、そして健康被害や差別偏見の目にさらされながら、辛い日々を送ってきました。人々が豊かで便利な生活を求める裏側で、被害に見舞われた人たちは苦しんでいたのです。

遠くで起きた出来事であっても決して他人事ではありません。

自らが公害や災害に直面したとき、差別偏見の立場におかれたとき、どのように向き合うか、どう生きるべきか、沢山のことを私たちは学ばなくてはなりません。公害を二度と起こさない、差別や偏見をなくしていく、そして自らが学び、その経験を教訓として語り継ぎ、後世に伝えることが必要ではないのでしょうか。

この展示がその一端でも担うことができるよう祈念しております。

そして、私たちはこう問いかけます。「あなたはどんな未来をつくれますか？」

水俣市立水俣病資料館

水俣病はなぜ起きたの？



1932(昭和7)年からチッソの水俣工場では、水俣病の原因となるアセトアルデヒドの製造が始まり、メチル水銀を含む排水が流され始めました。

排水も「海に流せば薄まって、いずれどこかに行ってしまう」という当時の考えから、チッソは、汚れた排水をきれいにして流すことをしませんでした。そして、メチル水銀は海中のプランクトンに取り込まれ、魚や貝に溜まっていきました。

魚がメチル水銀に汚染されていても、味も臭いも変わることはなく、多くの人々は魚や貝を食べ続けました。

そして、海辺で生活する人々を中心に、原因が分からない病気が発生していることが、1956(昭和31)年5月になって発見され、チッソ附属病院から熊本県水俣保健所に報告されました。これによって、水俣病が初めて公式に確認されたのです。

水俣病って、どんな病気なの？



水俣病は「メチル水銀」が原因で起きる中毒症です。空気や食べ物を通してうつることや、遺伝することはありません。水俣地方特有の風土病でもありませんでした。

水俣病の主な症状は、①両手両足の先にいくほど、痛みやさわった感じがわからなくなる、②転びやすい、歩きにくい、③目の見える範囲がせまくなる、④耳が聞こえにくい、⑤言葉がはっきりしないなどです。このほかに、⑥手足がしびれる、⑦こむらがえりがする、⑧頭が痛い、⑨疲れやすい、などを訴える人もいます。水俣病の患者さんのなかには、見た目では分からない症状を抱えている人もおり、現在の医学では治すことができません。お母さんのお腹の中で、お母さんが汚染された魚や貝を食べることによって病気になった「胎児性水俣病」の患者さんもいます。また、幼い頃に被害を受けた「小児性水俣病」の患者さんもいます。

なぜ排水は すぐに止まらなかったの？



昭和20年、戦争に負けた日本は、国民の暮らしが再び豊かになることを目指し、国全体でたくさんのものをつくるなど経済の成長を一番に考えました。日本中で人の生命や健康を守ることよりも、お金を儲けることに一生懸命になりました。チッソは原因を突き止めるための工場内の実験を中止させ、メチル水銀の浄化効果がない設備を作り、ウソをついて原因をかくそうとしました。一方で国は、水俣病の原因がチッソの排水であることが分かっても、国を豊かにするための工業製品や国民にとって便利なのが作れなくなることから、工場の排水を止めさせることをしませんでした。地域の人々も、排水が止まることによりチッソが倒産し、仕事なくなることや心配して排水を止めることに反対していました。

早く移動できる、おいしいものをいつでも食べられるといった便利で豊かな暮らしを求めてきた私たちの気持ちが、便利でものにあふれた社会を作りました。生命や健康を守ることが忘れてしまった私たちが、排水を止めさせなかったのかもしれない。

チッソってどんな会社なの？



チッソは明治時代の終わりころ、水俣に大きな化学肥料工場を造りました。その後ビニールハウスや衣服、昔のプラスチックの原料になる「塩化ビニール」、塗料や接着剤、化学繊維の原料となる「工業用酢酸」などを作っていました。戦争に負けるまでは朝鮮半島にとっても大きな工場も持っていて、ダイナマイトや人造石油等々、戦争に役立つものも作っていました。

現在は、テレビやスマートフォンの画面に使われる液晶、化粧品に含まれる保湿材やプラスチックなど、私たちの暮らしを支える多くの商品の原料を作っています。チッソの技術や原料から作られるものをなくしたら、私たちは、今の生活を続けていくことができるでしょうか？

今でも水俣病は発生しているの？



今新しく水俣病を発病する人はいません。
しかし、ずっと前から両手両足のマヒなどの症状を持っていたにもかかわらず、「水俣病になると、子どもが結婚できないかもしれない」、「近所の人に冷たい目で見られてしまう」、「補償金が欲しくて水俣病になるのかと、言われてしまう」などのことを気にして、申請をためらっていた人や水俣病の疑いがあることを知らなかった人々が、やっと今になって「自分も水俣病ではないか」と、認定の申請を行っています。

水俣病の患者として「認定」されている人は2280人(内死亡者1874人、2016年3月末現在)です。その他にも認定はされていないが「水俣病の被害者」として、水俣病の症状に苦しんでいる人はたくさんいて、まだ水俣病の問題は終わっていないのです。

患者や家族はどう闘ったの？

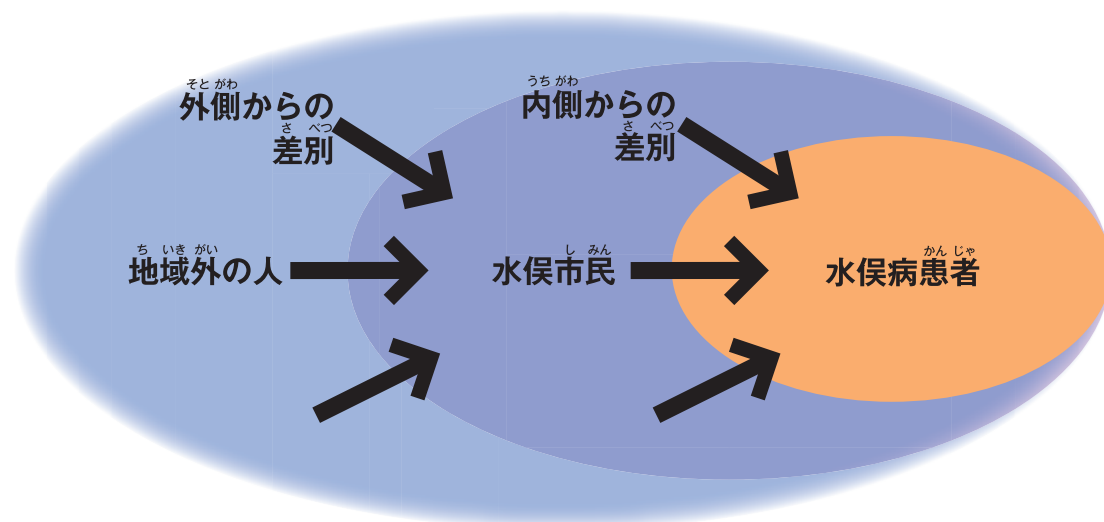


水俣病はその発見から現在まで「誰が水俣病患者なのか」をめぐって、患者家族や漁民と、チッソ、国、県が争ってきた歴史ともいえます。そして水俣市を支えてきた一番大きな会社であるチッソが、水俣病の原因企業であることが、被害を受けた人々にとって苦難を大きくしてきました。

水俣市民の多くがチッソを大事に思っているなか、患者さんたちは、チッソの工場や本社の前に座り込みを続け、その責任を明らかにし、補償を要求した裁判を何度も行ってきました。また、チッソが行ってきたことは「犯罪だ」として検察に訴えることや、長い間水俣病患者として認めないことは法律違反であるとの訴えを、裁判所に行っていました。

患者さんや漁民たちが行った裁判や工場への座り込みは、とても大変なことです。水俣病が確認された時から、チッソや行政が、しっかり被害者の声を聴くことが必要でした。

患者や家族は 差別やいじめをうけたの？



水俣病が確認された頃は、一つの家族から多くの患者が見つかったことから「水俣病はうつる病気」、「弱った魚を食べたから病気になった」などとして誤解され、患者さんやその家族は地域の中で偏見や差別を受けていました。身体の具合が悪くて「水俣病かもしれない」と思っても「お金がほしいのか」と言われることを恐れ、家族やチッソに遠慮して申請をしない人もたくさんいました。

水俣市民も水俣市の外では「あの水俣病の水俣から来た!」「魚は食べられるの?」「水は飲めるの?」と、まったく根拠のない偏見にあい「水俣出身です」と言えない雰囲気さらされることが今もなお続いています。

このため、水俣市外の人には、水俣病のことを正しく理解してもらうことが必要です。また、水俣市民は、大人も子どもも被害者の話をしっかりと聴き、水俣病資料館を見学するなどして、水俣病の歴史と事実を知ること、偏見や差別に立ち向かえる知識を蓄えるとともに、自分自身の中にある「水俣病への偏見・差別」をなくすことも必要です。

水俣では、今でも 魚を食べたら危険なの？



かつて、水俣湾には 70 ～ 150 トンの水銀が流され、多くのメチル水銀が溜まっていたと言われています。1977 (昭和 52) 年から約 485 億円の費用と 13 年の年月をかけ、水銀をふくんだ汚泥を取り除き、水俣湾の奥部を仕切って埋め立てる環境復元工事を行いました。その結果 1994 (平成 6) 年には水俣湾には国の基準である 0.4ppm を平均値で超える水銀を含む魚はいなくなり、1997 (平成 9) 年には熊本県知事が「水俣湾の安全宣言」を行いました。

今では海水もきれいになりサンゴが増えて、たくさんの人が釣りを楽しむ美しい海に変わりつつありますが、埋め立てにより、かつての「豊かな海」は失われてしまい、元の姿に戻すことはできません。

国や県はどうしていたの？

■ 手帳 ■

 水俣病認定申請者医療手帳	1974年（S49）政治解決 ● 対象者 認定審査会の審判又は知事の処分（認定するか否かの決定）が保留されている人 指定地域に5年以上居住し、水俣病認定申請後1年（一定の症状がある方は6ヶ月）以上経過している方 ● 事業名 水俣病認定申請者治療研究事業
 医療手帳	1995年（H7）政治解決 ● 対象者 水俣病にもみられる四肢末梢部位の感覚障害を有する人 ● 事業名 水俣病総合対策医療事業 申請：1996.1.22～1996.7.1 一時金 260万円
 保健手帳	1995年（H7）政治解決 ● 対象者 水俣病にもみられる神経症状を有すると認められる人 ● 事業名 水俣病総合対策医療事業 ● 保健手帳 ● 簡便医療手帳 申請：1996.1.22～1996.7.1 再開：2005.10.13～2010.7.31 給付内容を拡充して申請受付を再開 （水俣病被害者手帳へ統合）
 水俣病被害者手帳	2009年（H21）政治解決 ● 事業名 水俣病総合対策医療事業 ● 一時金等対象者 ● 療養費対象者 かつて水俣病又はその周辺地域のメチル水銀に汚染された魚などを食べて、食中毒、一時的感覚障害を有すると認められる人 かつて水俣病又はその周辺地域のメチル水銀に汚染された魚などを食べて、食中毒、一時的感覚障害を有すると認められる人 申請：2010.5.1～ 一時金 210万円

※2009年4月から申請されたものは新医療手帳

（一時的金等対象者と療養費対象者の区別あり）

手帳の比較

	水俣病認定申請者医療手帳	医療手帳	保健手帳	水俣病被害者手帳
医療費	●（自己負担分）	●（自己負担分）	●（自己負担分）	●（自己負担分）
医療系介護サービス	●（自己負担分）	●（自己負担分）	●（自己負担分）	●（自己負担分）
はり・きゅう・マッサージ（医療機関利用時のみ）	●（自己負担分）	●（自己負担分）	●（自己負担分）	●（自己負担分）
温泉療養（入浴料）	—	●	●	●
療養手当て	▲ 保険者のみ	●	—	—

水俣病の被害者が最初に確認されたころ、チッソの経営幹部は、工場内で行われていた原因を突き止めるための実験を中止させ、原因が自分たちの工場から出ている排水だと分かっているにもかかわらず、詳しい調査など適切な対応を取らず、排水の停止も被害者への補償も行いませんでした。

国は他の工場へ影響が広がり、国や地域の発展が進まないことを恐れて、工場の排水を止めませんでした。また、県は不知火海沿岸の人々の毛髪水銀を調査しましたが、被害の把握やその後の被害者救済には使いませんでした。

現在、国や県は、医療費の無料化や胎児性患者への支援など、様々な努力を重ねていますが、被害者の要望である「全ての沿岸住民の健康調査」は今も行われず、被害者の中には国や県、チッソに対して、強い不信感を持つ人もいます。

水俣市は「環境モデル都市」 をめざしています。



水俣市では、水俣病により美しい環境と大切な生命をうばわれたことの教訓をもとに、1992年から「環境モデル都市づくり」に取り組みました。

そのなかで、被害者と市民が一緒になって、水俣病についての悩みをお互いに語れるようになるための「もやい直し」も進めてきました。資源ゴミを多品目に分別し、家庭や学校などで独自の資源再生プランや環境マイスター制度なども行っています。市民自らが主役となったこうした取り組みが評価され、水俣市は2011年に全国で最初の「日本の環境首都」に選ばれました。

水俣病を経験した水俣市には、国の内外からたくさんの人々が勉強にやってきます。修学旅行生や熊本県内の小学5年生も、毎年水俣病資料館を見学しています。多くの人々が苦労を重ねてきた水俣市は、水俣病の歴史と教訓をもとに「生命や人権、環境を大事にする」まちづくりを行い、国内外に貢献できるよう努力を積み重ねています。

あなたは、 どんな未来をつくれますか？



水 俣病を知ることで「起きたことを、最初にしっかり調べることが大切」、「生命や健康は、とても大事なこと」、「公害が起きると、差別も起きてしまうこと」、「地域の人々どうして争うと、元にもどることは難しいこと」などが学べたと思います。

でも、「お金よりも、人間の生命や健康が大切である」ことを、守り続けることは簡単ではありません。水俣病を学び、どんな風に努力したら良いのか、それぞれの地域で、一人ひとりが考えていきましょう。生命や差別・偏見のことを、自分のこととして考えることも大切です。限りある地球の資源を大切に使い、人々が互いに支え合うことで生まれる「信頼」を基本にして暮らしていけるよう、これからも努力を続けましょう。

「あなたは、どんな未来をつくれますか？」